らすれば、當時の國家社會の諸關係は混沌たる者であつたが、いつでも負債者側の爲に干渉を試み頻繁なる流血と最後の大破裂とを防止するに努めた。

古代の金貸業は借手の窮乏に乘じて利を營む者で、其の全組織がツイ前時代の血族制及び共產制と全く相反する明白な惡行であつた。從つて當時の道德論者が絕えず盛んにそれを批難したばかりでなく、それからズット後れた時代の初期基督敎會の敎父連も同じく盛んに批難を加へてゐた。然し經濟進化の殘虐の恐るべきは自然界の殘虐の恐るべきと同じである。人間の感情や慾望などには少しも頓着しない。人間の道德も心靈も全く無視して了ふ。經濟界には何種の宗敎もはいりこむ餘地がない。征服するか、然らずんば滅亡せよ。主人たれ、然らずんば奴隷たれ。汝の情緒も、汝の精神も、等しく只だ懸つて汝の腹に在る。後前が充たされなければ前者は働かない。個人的及び社會的生活の物質的基礎が十分に確保されてこそ、高尙なる人間智德の發達も可能になるのである。故に奴隷制も亦た人間向上の止むを得ざる一段階であつた。負債者が債主に屈服するのも、矢張り前時代からの自然の結果であり、又次の時代に對する準備であつた。

四　奴隷制の感謝

當時（及び其後も同じく）多數民衆は自己の周圍に於ける事物の變遷に對して全く無自覺であつた。交換と貨幣、市場を目的とする個人生產、及び奢侈を目的とする奴隷生產、それらの者が漸くにして昔しの血族的共產社會の遺物を掃蕩し盡した。富の壓迫は機會ある毎に層一層の增大を加へ

奴隷耕作が遂に最後の優勝を制し、奴隷生產が遂に社會一般の實行となり、自由勞働者は殆んど全く經濟的勢力を失ふ事となつた。野蠻時代の上期は農業と製造業との間に分業を生じたが、文明時代の下期は此の分業を確定して、更にそれを押し進めた。奴隷は其の所有者の富の程度に從つて、或は大群を爲し、或は小群を爲しつゝ、田野、都市、若しくば鑛山に於いて苦役に服した。そして一般の社會關係の如何に依り、若しくば其の直接の主人の性情如何に依り、或は殘酷に、或は親切に取扱はれた。然し、希臘では比較的に善く取扱はれたとか、羅馬やカーセージでは殘酷に取扱はれたとか、或は又、ケトーには笞たれたり殺されたりしたが、クラッカスには柔しくされたとか云ふ差異はあつても、要するに彼等は大體に於いて財物であつて、其の共に勞働する牛馬と異なる所はなかつた。又奴隷の中で地位の高い者でも、必ずヨリ善き待遇を受けるとは限らなかつた。取締（若しくば組頭）と云ふ者などは、其の組中の者共よりも粗惡な分配を受けてゐた。そして其の理由が、監督といふ樣な仕事は手足の勞働に比べて遙かに樂だと云ふに在つたのは、頗る面白い考へ方である。それから、奴隷が其の生活費以上に產出した物が悉く主人の所有となるは勿論の事で、而も其の奴隷は決して無敎育な下等な人物ばかりでは無かつた。大哲學者プラトーは初め奴隷として賣られ、後多額の價を拂つて纔かに釋放された者である。寓話で有名なイソップも矢張り奴隷であつた。其他にも才能のある人物で、奴隷の子に生れた者、又は奴隷の境遇に陷れられた者が少なくなかつた。それで羅馬人の富の最も重要な部分を成す者はそれらの高等奴隷であつて、土地や鑛山は重要の度に於いて第二位に在つた。作文者、寫字者、美術者、裝飾者、金銀鍛冶、其他各